



オーストラリア 汎用フリゲート艦



実施したこと

オーストラリア政府は、オーストラリア海軍の次期汎用フリゲート艦のプラットフォームとして、もがみ改良型フリゲート艦を選定しました。もがみ改良型フリゲート艦は、豪州能力要件に最も合致し、かつ納税者にとっての費用対効果が最も高い入札提案を行った三菱重工業（MHI）が建造します。この決定は厳格で透明性の高い競争入札プロセスを経て行われました。



今後の予定

国防省は今後、日本との調達プロセスの次の段階に入ります。このプロセスにより、日本で建造される最初の3隻のフリゲート艦の政府間取り決めが最終決定されます。最初のフリゲート艦は、2029年にオーストラリアに引き渡され、2030年に運用開始予定です。



なぜ重要なのか

このプロジェクトは、オーストラリア政府が10年間で550億ドルを投資し、海軍の水上戦闘艦隊の規模を2倍以上に拡大する取り組みの一環です。このフリゲート艦は、アンザック級フリゲート艦に代わるもので、海中戦と局地防空用の装備を備え、海上貿易ルートと北部接近経路の安全を確保します。ハンター級フリゲート艦、改良型ホバート級駆逐艦、先進ミサイル設備とともに、汎用フリゲート艦は、オーストラリアの戦略的状況に対応するため、より大規模で殺傷力の高い水上戦闘艦隊を海軍にもたらすことになります。



もがみ改良型フリゲートのイメージ図

もがみ改良型フリゲートの能力

海上戦闘ヘリコプター：フリゲート艦は、対潜兵器やセンサー、対地ミサイルを使用できる海上戦闘ヘリコプターを運用します。

対潜戦：アクティブ／パッシブ曳航アレイ・ソナーを装備し、最新の潜水艦を探知することができます。

自己防衛：戦闘管理システム、地对空ミサイル、近接武器により、重層的なポイント防御システムがもたらされ、自身と近隣の護衛艦を守ることができます。

陸上・海上攻撃：対艦ミサイルを搭載したもがみ型は、海上および陸上の目標に対して水平線からの攻撃を行うことができます。

戦力防護：主砲と遠隔操作式の武器により、非対称な地表と空からの脅威から身を守ります。

調達スケジュール

2024年2月

オーストラリア政府が、海軍の水上戦闘機艦隊に関する独立分析に対する見解を発表し、オーストラリアが例示的なフリゲート艦プラットフォームの造船メーカー5社のうち1社から汎用フリゲート艦11隻を購入するよう勧告。

2024年5月

国防省が、代表的なフリゲート艦プラットフォームの造船5社に対し、市場アプローチ（Approach to Market）を発出。

2024年11月

オーストラリア政府が、三菱重工から1案、ティッセンクルップ・マリン・システムズ（tkMS）からの2案絞り込む。

2025年8月

オーストラリア政府が、汎用フリゲート艦のための優先候補のプラットフォームとしても改良型フリゲート艦を選定。

2025-2026

国防省は日本との調達プロセスの次の段階に着手。

2029

最初の汎用フリゲート艦がオーストラリアに引き渡される予定。

2030

最初の汎用フリゲート艦、運用開始予定

原産国	日本
設計者	三菱重工業
運用者	海上自衛隊
全長	142メートル
排水量	6,200トン（満載時）
幅	17メートル
速度	30ノット以上 / 56km/h以上
航続距離	最大10,000海里
乗組員	90名（最大138名収容可能）
推進システム	ディーゼルとガスの複合推進システム（CODAG） ガスタービン 1基 ディーゼルエンジン 2基
システム	曳航アレイソナー アクティブ電子走査アレイ（AESA）レーダー 電波妨害措置 高度戦術データリンク
武器	32セル垂直発射システム（VLS） 対空ミサイル 対艦ミサイル 5インチ主砲 x1 短距離ポイント防御システム x1
航空	海上戦闘ヘリコプター 1基